

もみじ

—広島山岳・スポーツクライミング連盟会報—



一般社団法人 広島県山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail: hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL: <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 西部伸也

本号内容

1. 京オ名誉会長日山協特別表彰報告
2. 登山教室報告
3. 手作りワカン講習報告
4. 福山山岳会『コースガイド 100』の紹介
5. 県民ハイキング (有志) 報告
6. 広島県高校新人登山大会報告
7. 冬山技術研修会報告
8. 岳連短信



(特別表彰受賞者と代表して謝辞を述べる京オ名誉会長)

1. 京オ名誉会長日山協特別表彰報告

(会長 山田 雅昭)

公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会の 2019 年「新春懇談会」が 1 月 12 日 (土) アルカディア市ヶ谷 (東京) で開催された。

この新春懇談会は、年初めの 1 月、日山協関係者が一堂に会して年間の山岳関係活動の総括報告、スポーツクライミング競技総括報告および表彰、新春の懇談を行うもので、本年度は、来賓として駐日ネパール特命全権大使他・報道・山岳関係者 (42 名)、表彰者 (14 名)、日山協顧問・理事・監事 (25 名)、日山協常任委員・専門委員 (17 名)、各県岳連から (63 名) の計 161 名で開催された。

表彰者は以下の通り。

- ・特別表彰受賞者 大滝 潤二、喜内 敏夫、角田 二三男、中村 久住、京オ 昭、下田 泰義、古里 亜夫、中庭 稔、傘木 靖
- ・第 8 回山岳グランプリ受賞者 馬目 弘仁
- ・スポーツクライミング優秀選手受賞者 原田 海、野口 啓代、土肥 圭太、谷井 菜月

2. 登山教室報告

第 10 回 2 年生 1/12 (土) ~ 13 (日)

登山形態: テント泊山行

山城: 大山

人数: 9 名 (スタッフ含)

今回の 2 年生は川床から大休峠を往復しました。雪が少なく心配していましたが、なんとか受講生全員が泊まれるだけの雪洞を構築できました。

(指導部 森本 寛)

『1 月山行 (大山、大休峠) を終えて』

(登山教室 2 年 新宮原 正美)

今回、天候は曇り、気温はやや暖かく風もほとんど

無くコンディションに恵まれた。しかし積雪が少なかったので行動は楽だったものの目的からはやや不十分だった。

雪中ラッセルは今回、全体の行程に高低差が少なく、谷筋への降下、尾根筋への登り以外は体力を消耗することが少なかった。しかしテント泊を想定している関係で歩荷が一定程度あったのでこの重量がこたえた。

ビバーク体験ということで雪洞を製作した。洞の中はかなり快適。しかし、製作に一定以上の人数と時間を要するので、荒天の中では採用しにくい。ツェルト等を利用した緊急避難策を併せて考え、場面に適した対応をとることができるかどうかが肝心だ。

ビーコンによる搜索訓練。ビーコンの機種（製作時期、価格）ごとの性能格差が非常に大きかった。通常教わっている搜索方法は機器の同一性能を前提としているが、この度のように性能格差が大きい場合は優秀な機器に先鞭をつけさせ、他はそれを補完する動作をとるべきだろう。生死に関わるので、このためには実証検討が必要だと思う。



(写真提供 久保田 征治)

第 10 回 1 年生 1/20(日)

登山形態：日帰り山行

山域：恐羅漢山

人数：16 名（スタッフ含）

今回の 1 年生は雪山の基本なので積雪量の関係で山域を深入山から急遽恐羅漢山に変更しました。雪が少なく心配していましたが山頂付近でなんとか雪を使った講習が実施できました。（指導部 森本 寛）

『雪の歩きに慣れよう』

（登山教室 1 年 室本 章子）

深入山を予定していたが、雪がないという事で、恐羅漢へ急遽変更になりました。恐羅漢への道中、積雪

があまりないので心配していましたが、高度が上がるにつれ積雪もあり「雪の歩き」を堪能できた山行でした。

3 班に分かれ、先頭交代をし、ラッセルしながら登る。道のない雪の上を歩くのは、戸惑ってしまいました。そして、何よりワカンを装着しているので、足取りが重く、思うように前へ進めない。何度、自分で自分のワカンを踏んだことか！

途中で、急斜面のラッセルの仕方、急斜面の下降の足運びの講習を受けながら山頂を目指しました。頂上では、「万が一雪崩に遭遇したら？」を想定しての講習も受けました。雪の中に埋められるという「埋没訓練」は怖かったです。埋没者を探す為の、ビーコンを使つてのサーチ法、プローブを刺しながら、埋没者を探る仕方、そして埋没者を搬送する方法等を教えていただきました。

書面や写真で見るだけでなく、実際に体験をさせていただく事はありがたい事だと感謝しています。

雪山では特に充分に注意して、登山をするべきだと、認識した山行でした。今後は体力の強化と雪山装備に慣れていかなければいけないと思います。



(写真提供 松本 正和)

3. 手作りワカン講習報告

12 月 8 日(土)と 1 月 19 日(土)の 2 日にわたり、北広島町八幡高原の山荘にて県庁山の会会員・JAC 広島支部会員・個人希望者の方に当連盟副会長の岡谷さんより手作りワカン講習がありました。以下は岡谷さんからの報告と参加者の菊間さんの感想・写真です。

私は昔からの日本里山で伝わる「文化」、木のワカンが大好きで、アルミワカンやスノーシューが当たり前の時代だが、今でも里山のワカン捨てきれず、その愛用者である。

数年前か、大山川床から大休に行く途中、芸北で作って頂いたワカンが折れてしまった。枝で補強して何とか大休小屋に到着。如何にしたものかと思案していると、頃合いのいい木が目に入る。よしこれで作って見ると思いつき、木を切ると、なんとほんのりと癒しの匂いがする香木（黒文字、クロモジ）であった。壊れたワカンのひもをばらし、バーナーで炙りながら木を曲げなんとか壊れた片足分を寒い小屋の中で組上げる。翌日も充分に使用でき、これが私の手作りワカンのきっかけだった。

黒文字の木は茶会をはじめ癒しのアロマとしていろいろな方面で重宝されている材だ。これでワカンを作ると楽しいかな・・・、の思いでいた。チャンスがあったのが、比婆山。お客様を集めて訳の解らないまま、手作りワカン講習を実施した。なんと皆大喜びである。

そのことを聞きつけた県庁山の会の菊間氏の要望で再度計画。さらに J A C 広島支部の皆さんの希望もあり、岳連有志で、北広島町八幡高原の斎山荘を提供頂き講習を行う事になった。

完成させるまでには、材料調達、曲げ込み固定、編み込みの工程となかなか手強いこともあり、まず 2018 年 12 月 8 日（土）に材料調達と曲げ込みを計画し、15～16 名が集まる。暖冬かと思いきや、突然の積雪で八幡高原に行くことも困難な状況のなか、車調整しながらやっとの思いで到着。材料調達を済ませ、お湯を沸かし黒文字に柔軟性を持たせゆっくりと曲げていく。雪がちらつく中、皆寒いとも言はず黙々と真剣である。自分の物と仲間の物も成形をして寒い一日は終了。次回の編み込みを約束し解散。皆さん寒い中ご苦労様でした。

1 月 19 日（日）八幡高原斎山荘に再集合。地域の人との交流を含めて里山工房の方にもお願いし、斎山荘の二階を陣取り、固定と編み込み手順を説明。各自に作成してもらうも、ロープの編み込み手順、締め込みに悪戦苦闘。「ワイワイ」とお互いに協力しながら出来上がりを楽しみながら何とか編み込み完成。編み込み

の弱いものは補修して全員完成。試し履きして不備を確認してみる予定でしたが、まったく雪の無い状況で残念でした。

時代の変化と共に忘れ去られていく里山文化を継承出来るのは里山と触れ合う機会が一番多い我々登山者だ。こんな思いで 2 日間の手作りワカン講習は終了した。斎山荘をご提供頂き、各会の交流のチャンスも頂きましたこと、ありがとうございました。

今後またこの様な企画の希望があれば、里山文化継承のためにも、ご用命頂ければ喜んで協力致します。

（副会長 岡谷 良信）

1/19 は、芸北八幡で「輪かんじき」作りでした。12 月にクロモジを曲げて輪っかを作ってましたが、それにくぎ打ち針金かけ、最後の紐かけを経てクラシックかつ高級感あふれる「輪かんじき」が完成しました。教えていただいた岡谷さん、製作場所を提供いただいた斎さん、ありがとうございます。

（県庁山の会 菊間 秀樹）





4. 福山山岳会『コースガイド 100』の紹介

(事務局長 西部 伸也)

もみじ前号の岳連短信で『福山山岳会創立 100 周年記念コースガイド 100』(2/23 尾道市啓文社より発刊・税込 2,160 円)について簡単に紹介したが、このたび同会より本連盟山田会長に寄贈されたこの書籍を借り受けて読む機会があったので、改めて紹介する。

一言で言えば、このガイドブックは大変すばらしく、とても参考になるものである。とりわけ県東部のいろいろな山に登ってみようと思う人にとっては、「バイブル」と言っても過言はないだろう。

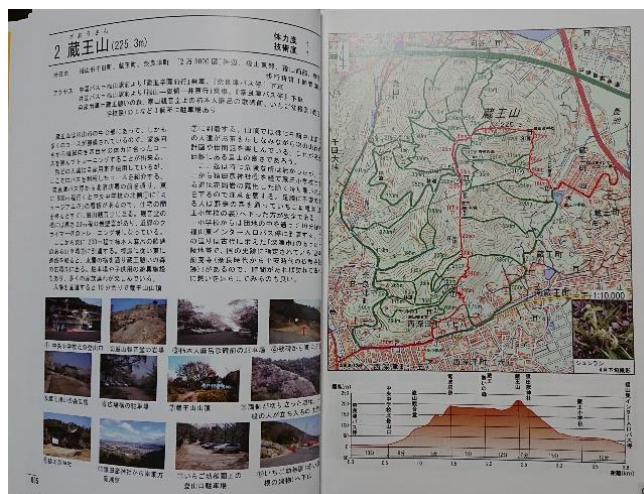
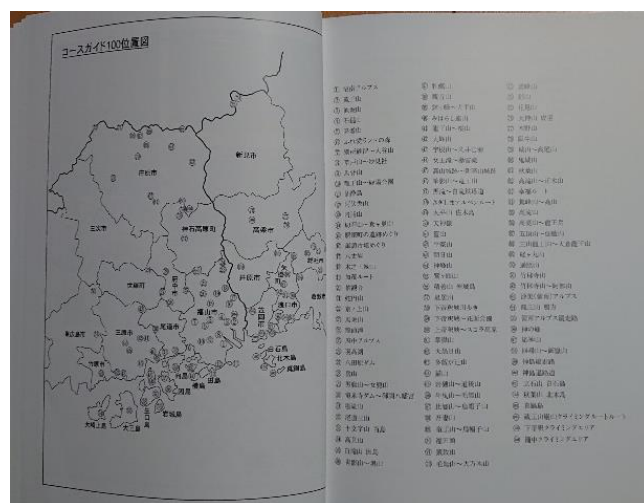
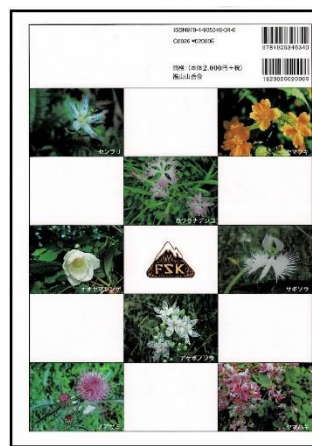
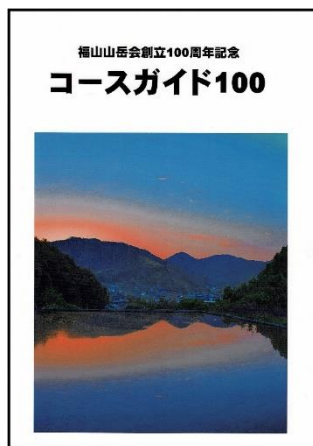
本の体裁は、福山山岳会のホームグラウンドと言える県東部ならびに岡山県西部の 100 余りの山とエリアの紹介がそれぞれ見開き 2 ページに要領よくまとめられている。(左ページは文章によるコース紹介と主な地点の写真、右ページには正確で見易いコース地図と高低断面図というふうに。)

個人的なことになるが、私は広島県東部の因島出身で、高校 3 年生までそこで暮らしていた。当然郷里には愛着があり、この『コースガイド 100』にも因島から 2 つの山城(白滝山、青影山～奥山)が紹介されているのは嬉しかった。

また、一昨年亡くなった母が晩年は福山市春日町の老人向けマンションで暮らしていて、母が亡くなった後は大阪在住の姉が週の半分ほどそのマンションにやってきて暮らしているが、その春日町からさほど遠くないところに「蔵王山」という山があり、それが「沼南アルプス」に次いで 2 番目に紹介されているのも目を引いた。姉も割と山好き・散歩好きであるから、ぜひ姉にも蔵王山を教えてやりたいと思ったし、蔵王山の麓近くの岩壁には初歩的なクライミングルートも

あって別ページで改めて紹介されているのも興味深く思った。

そのほか、「山野峡龍頭滝」の初歩的な沢登りコースや県北「猿政山」の広島県側ルート等々、私の個人的な興味を引くページが多々あり、我が家にも 1 冊備えたいと思う次第である。



5. 県民ハイキング（有志）報告

1 月 20 日（日）の県民ハイキング（佐木島・大平山）は降水確率 50%以上のため本連盟の公式行事としては中止になりましたが、それでも当日は多くの人が佐木島に集まり、「有志」によるハイキングも実施され、また地元ボランティアの方の熱烈な歓迎も受けたとのことなので、簡単ながら報告をしておきます。

なお、豊田理事長が当日予定していた「カバチ」（歴史解説）の原稿がありますので、ここに掲載しておきます。

『山上のカバチ（佐木島編）』

（理事長 豊田 和司）

第 1 のカバチ『裸の島』（三原港～佐木島船上にて）

左手に見えて参りましたのが、宿禰（すくね）島で、新藤兼人監督の『裸の島』のロケが行われた島です。監督は、この島を見つけるのに苦労されました。忠海から尾道行き船に乗り、三原沖、このあたりですね、に差し掛かったときにこの島を見つけ、「はっと胸をつかれます」

この時の新藤監督の置かれていた状況ですが、松竹から独立して近代映画協会を興して 10 年が経過していましたが、経営は破綻寸前。それでも独立プロに固執してビキニ環礁の水爆実験で被ばくした『第五福竜丸』という映画を製作しますが、これも興行的に失敗し、借金を背負ったまま『裸の島』に臨まれます。これを最後の映画、近代映画協会が解散する記念にと計画されました。

完成し、発表されても国内ではまったく相手にされず、ポルノ映画と勘違いした人から契約の問い合わせがあっただけでしたが、モスクワ映画祭でグランプリを獲得し近代映画協会の起死回生の作品となりました。63 ヶ国と契約を結び当時のお金で約 4,000 万円、（今のお金にして約 4 億円）を手に入れますが、そのうち 3,000 万円は借金の返済に消えたそうです。

第 2 のカバチ『第五北川丸の遭難』（の慰霊碑の見え見晴らし台にて）

昭和 32 年 4 月 12 日、12 時 40 分頃瀬戸田港を出て尾道港に向かった旅客船第五北川丸は、佐木島沖にある岩礁（寅丸礁）に底触、瞬時に沈没、死者 92

名・行方不明 21 名（生存者 126 名）という異例の海難事故を起こしました。慰霊碑が建立されてから、昨年まで毎年慰霊祭が行われていましたが、昨年の 50 回を以て合同慰霊祭は終了しました。黙とう……。

第 3 のカバチ『厳島神社の候補だった』（千畳敷にて）

宮島に祀られている市杵島姫命（いちきしまひめのみこと）が、安住の地を求めてここへ来られました。広さを測ったところ 999 畳と、1000 畳にあと 1 畳足りませんでした。住むことに決められました。ところが、草むらからキジの声が聞こえたために、キジが大嫌いだっただけ姫は驚いて山から飛び降り去って行かれました。姫が飛び降りた所がその勢いで二つに割れたとされ、現在の「割石」とされています。同様の伝説は、大崎島にもあり、また因島には、犬に吠えられたので逃げたという伝説もあり、犬の島がなまって因島（いんのしま）になったと言われています。

実は、次回 2 月 17 日の県民ハイキングの白鳥山にも似た伝説があります。ヤマトタケルノミコトが亡くなった時、白い鳥になってまず大和に飛び、次に四国に飛び最後に高屋に来ますが、里で白い犬に吠えられて白鳥山の上に逃げると、今度はキジに鳴かれたので、山頂から去って行った、と言われています。これらの伝説が意味するものは何か？ 次回の県民ハイキングでその謎に迫ります。

6. 広島県高校新人登山大会報告

（事務局長 西部 伸也）

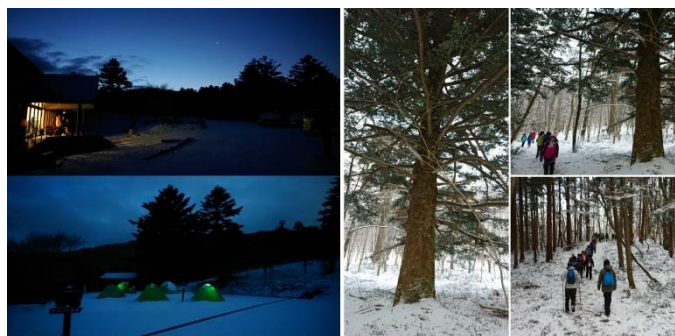
2 月 9 日（土）～10 日（日）もみのき森林公園において広島県高体連登山部の新人大会（冬山・雪山講習会）が開催されました。参加校・参加人数は 8 校・64 人（男子 39・女子 10・顧問 13・講師 2）でした。

今年は極端に雪が少なく、十分な実技ができないため、1 日目は講師（尾道・西部）から雪山に関する講話も行われました（西部：雪山のリスクとそれへの対処および雪山の魅力について。尾道：雪山テント生活の注意点について）。晩は男子はテント泊、女子は体育館での就寝でしたが、朝の気温がマイナス 4℃とそこそこの寒さの中、生徒たちは貴重な体験をしたことでしょう。

2 日目は少ないながらも新雪の積もったきれいな景色の中、体育館前から小室井山・オートキャンプ場と一周し、生徒たちは雪山を堪能しました。



1 日目開会式・テント設営・雪山講話・生徒交歓会



2 日目早朝の様子・小室井山へ向けての登山



小室井山山頂・オートキャンプ場の雪景色

7. 冬山技術研修会報告

2/9(土)～10(日) 三瓶山

人数：初級クラス 15 名 (スタッフ含)

中級クラス 11 名 (スタッフ含)

今回の三瓶山はとても積雪が少なく恵まれた環境ではなかったのですが、時間を掛け基礎的な内容を中心に見直す良い機会になったと思っています。

(指導部 森本 覚)

初級クラス感想文

(福山山岳会 志田原 直裕)

集合場所ではあまり積雪もなく、気持ちよくスタートすることができました。

二日間のうちの初日は、植林地や岩屑の登山道を室内池、孫三瓶、子三瓶と縦走しながら、途中の斜面では、初めてのワカンを経験しました。そして教えてもらったままに足運びに気をつけながらの歩行でしたが、なんとか使いこなすことができ、少しは楽しさを知ることができました。

二日目の男三瓶から姫逃池にかけての斜面で雪洞作りを皆さんと経験できたことや、簡単なロープワークを講師の方から教えていただいたのも興味深く、貴重な体験となりました、

全行程を通じてアイゼンは不使用でしたが、ある程度の積雪なら体重移動やバランスのとり方で必要ないことを教えていただき、また経験できましたことも研修での収穫となりました。このような素晴らしい研修会と親睦を図れる場を企画くださいました講師の方、スタッフの方、参加の皆様へ感謝いたします。



(写真提供 沖元 泰使)

中級クラス感想文『冬山研修会に参加して』

(日本山岳会広島支部 下森 憲治)

今回の中級クラスの研修目標は「雪山登山の応用的技術の習得」で、ある程度の経験者が対象でありそれなりの技術や経験（主にクライミング）を持って参加する必要があったことを研修が始まってから痛感した次第です。

二日間の研修では、登攀システムの実践、アイゼン歩行、ピッケルを使つての滑落停止及び斜面歩行の練習を行いました。特に急斜面や平面での登攀システムの実践練習が印象的でした。

自身の頭に残る登攀システムの動きのイメージを紹介すると、まずギアを着用し、リードとフォローに分かれてハーネスにエイトノットで本ロープを結ぶ。カラビナとスリングで支点をとってクローブヒッチでセルフビレイ。フォローの確保器の準備に続きリードが登攀を開始。数か所の中間支点を確保しながら登攀。フォローはリードの万一の滑落に備えて滑落の動線から逸れた位置で両手を離さずロープを送る。リードの第一終了点でのセルフビレイ。ムンターヒッチでのロープアップ準備後のビレイ解除の声。フォローは、「ロープアップ」の声でロープのたるみをなくす動きを促しながら支点ギアを回収して終了地点でリードと合流。リードはこの間に引き上げたロープがからまないようにセルフビレイのロープを左右に振り分けながら、フォローの万一の滑落に迅速に対応できるように両手を離さずロープアップの動作を繰り返す。

この明確な動きのイメージを頭で描けるのも、実践練習に加えて夜の研修会で丁寧に実演していただいたスタッフの皆さんのお陰でもあります。

ただし、実際の練習ではハーネスやカラビナなどのギアの不備、ロープワークやクライミングの技術不足などスタッフの方からたくさんの指摘やアドバイスもいただきました。その都度、自身の知識や技術の不足を痛感しました。参加者の技量の差が大きな中で指導される側も大変だったと推測します。それでも、個々の知識や技術レベル、経験に合わせて最後までわかりやすく説明・指導をしていただいたスタッフの皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

研修最後の挨拶でスタッフ代表の方が話された「今のレベルではまだまだ（厳しい）冬山登山は無理ですよ」との言葉が、2日間の研修を終えた自分にとって確信を持って納得できました。冬山の厳しい状況にまだまだ対応できるだけの知識や技術がないことを体感できただけでも大きな収穫だったと思います。

併せて、スタッフの皆さんの指導の根底に、「そのギアの使用やその行動にはそれを選択しなければい

けない理由や意味がある。そのことをよく理解（学習・習得）してほしい」との研修生への熱いメッセージがあったことを強く感じています。冬山登山に向けての必要な知識や技術の求め方（宿題）をスタッフの方からたくさんいただいた二日間でした

今後、足りなかった知識や技術をしっかり身につけてレベルアップした姿でまたこの研修に戻ってきたいと思っています。二日間、本当にありがとうございました。



(写真提供 松本 正和)

8. 岳連短信

1. 寄贈御礼

三原山の会『筆影』No. 467 (2月号)

福山山岳会『会報』H31.2月号

2. 2～3月の行事案内

2/17 県民ハイキング (白鳥山)

3/10 チャレンジクライミング (小中学生対象、福山 KOKOPELLi)

3/16 岳連例会山行 (安芸冠山)

3/24 県民ハイキング (高城山～蓮華寺山)

3. 役員改選

今年度末は理事の改選期となります。理事として本連盟の運営に携わってみようと思う方は積極的に立候補してください。また適任者の推薦もよろしくお願ひします。任期は2年です。新年度当初の主な予定は4/24 理事会、5/11 定期総会となります。

4. 2019 年度登山教室受講者募集

申込締切は 3/31（定員になり次第）です。詳細は連盟ホームページのニュースより確認してください。

5. 福山山岳会創立 100 周年記念式典の案内

4 月 29 日（月・祝）13:30～17:00 福山市立山野中学校体育館 内容はスライドショー・映画上映など

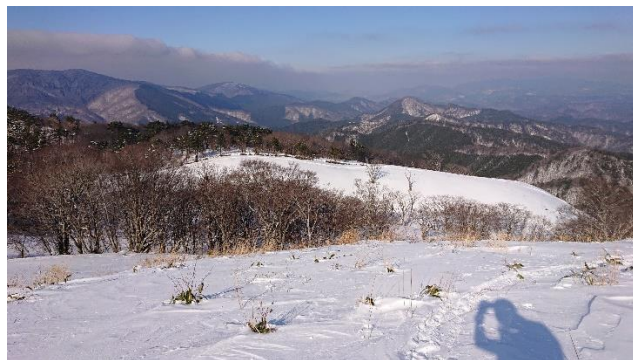
編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。

○会員団体会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい。

（紙面が余りましたので、いくつか写真を）



天気の良い休日には多くの登山者で賑わう深入山ですが、訪れる人の少ない北斜面と北側小ピーク台地の風景を紹介します。撮影は 2019 年 2 月 2 日（土）の午後です。（西部）